

インテック

インテックとサン、次世代EDIソリューション分野で協業
次世代の電子商取引市場を共同で開拓

インテックとサン・マイクロシステムズは9月、流通業界で今後普及が見込まれるインターネットを活用した次世代EDIシステム分野で協業し、共同で市場開拓を推進していくことを発表した。

この協業は、インターネットとXML技術を使った次世代EDIシステムを、従来より先導入しやすくするためのものである。インテックは、暗号化技術や電子署名を利用してインターネット上で安全な情報交換を実現するEDIソフト「B-ixServ(ビックスサーブ)」を提供し、サンは高機能で低価格なサーバ等のハードウェア製品とOSを提供する。また、B-ixServをサンのOS上でスムーズに作動させるためのモデルウェアも共同開発した。

国際標準の通信手順「EDIINT AS2」や「ebXML-MS」に対応しており、また、Solaris10で動作するものとしては日本で先駆けとなる本格的な次世代EDIソリューションが提供できる。今後、共同で次世代EDIの早期普及と市場の拡大を推進し、3年で500社からの受注獲得を目指す。

お問い合わせ先:インテック B2B-ix 事業部 TEL:(03)5665-5113

インテック

従来型EDIにインターネットEDI機能を追加
トータルEDIシステム「EDIServ」がEDIINT AS2に対応

インテックはトータルEDIシステム「EDIServ(エディサーブ)」のオプション機能として、通信ソフトウェア「AS2 Connector」を開発し12月より販売を開始した。

インターネットEDIの通信手順として国際標準になりつつあるEDIINT AS2に準拠しており、EDIServと組み合わせることでインターネットEDIが実現できる。

「EDIServ」は1997年の発売以来、300ライセンスの出荷実績をもつインテックのトータルEDIシステムである。「EDIINT AS2」は、欧米では大手流通業、消費財製造業等で広く採用されており、国内でも日用品化粧品業界VANプラネットがインターネットEDIサービス「SMOOTHEDI」に採用するなどニーズが急速に高まってきた。これに対応し、今回、オプション機能「AS2 Connector」を開発した。

すでに「EDIServ」を導入されているお客さまは「AS2 Connector」を追加することで、全銀手順、JCA手順など従来型EDIの機能に加え、「EDIINT AS2」に準拠したインターネットEDIが実現できる。「EDIServ」の充実した運用管理機能はそのまま使えるため、運用負荷を増やすことなく、インターネットで安全なデータ交換が可能となる。

お問い合わせ先: インテック ネットワーク営業部 TEL:(03)5665-5026

インテック

次世代XML-EDIセミナーを開催

インテックとサン・マイクロシステムズ、ウルシステムズの3社は9月27日(東京)と12月7日(大阪)の両日、「次世代XML-EDIによる新たなビジネスモデル」をテーマにセミナーを開催し、XML-EDIの動向やシステム投資で想定すべき点、現システムからの移行等について紹介した。参加者の交流の場も設け、大手小売チェーン、大手卸売業からの参加者が意見交換を行った。今後、順次全国で実施する予定。

インテックアメニティ

インテックアメニティ誕生
インテック興産とマイシティが合併

インテックグループで不動産管理・賃貸事業等を営むインテック興産と、同じく不動産賃貸事業等を行うマイシティは、平成19年1月1日をもって合併し、新しい体制で新年からスタートした。新社名は㈱インテックアメニティ。「快適さ」や「居心地の良さ」という意味の英語であるアメニティ(amenity)から名付けたもので、新会社が提供するサービスによってお客さまにアメニティを享受していただきたいという思いが込められている。

インテックアメニティは、総合ビル管理業をはじめとして、貨物運送業、保険事業など幅広い領域で事業を展開していく計画である。代表取締役社長は、インテック興産社長でありマイシティ社長であった今堀喜一が引き続き務める。

インテック

平成19年3月期インテック連結中間決算
4期連続の経常増益に

インテックの平成19年3月期中間決算(連結)は、売上高が微減だったものの、利益率の高いソフトウェア開発事業が伸びたことや有利子負債の圧縮が貢献し、4期連続の経常増益となった。当期利益については、前年同期には固定資産の減損会計の導入という特殊要因により一時的に赤字となったが、今期は約20億円の黒字を計上した。

平成19年3月期の通期予想は、ソフトウェア開発業務の受注が堅調なこと、F(エフキューブ)やMCFRAMEなどのパッケージ商品についても好調な受注が見込まれることなどから3期連続の増収、経常増益を見込んでいる。

中間配当は一株あたり2円増配し7円とした。期末配当は7円を予想しており、年間配当は14円と実質4円の増配を見込んでいる。

なお、今回の決算発表は、インテックホールディングス設立前の9月末時点での決算であることから、インテックの連結決算をインテックホールディングスから発表した。平成19年3月期の通期予想はインテックホールディングスとしての予想である。

	平成19年3月期中間決算(連結)		
	平成18年3月期中間実績 (インテック)	平成19年3月期中間実績 (インテック)	平成19年3月期中間実績 (インテックHD)
売上高	51,786 (0.1%)	51,144 (1.2%)	113,800 (3.6%)
営業利益	3,684 (31.8%)	3,676 (0.2%)	8,850 (1.2%)
経常利益	3,075 (61.5%)	3,192 (3.8%)	7,500 (3.6%)
中間(当期)純利益	2,611 (-)	1,998 (-)	4,200 (-)

(下段は対前年同期比増減率)

インテックホールディングス

慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス
「Open Research Forum」で
平井副社長がパネルディスカッション

平井副社長(左端)

慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス(SFC)研究所の「Open Research Forum」が11月22日~23日、東京・丸の内で開催された。このフォーラムは、SFCにおける産学官連携による研究成果の発表と、研究シーズ紹介による産学連携の推進を目的に1996年から毎年秋に開催されており、今年で11回目を迎えた。

23日には丸ビルで、「これからのSFCの産学連携」をテーマにセッションが行われ、インテックホールディングスの平井俊邦副社長が日立製作所の古川一夫執行役社長、野村総合研究所の村上輝康理事長らとともにパネラーとして登壇し活発に討論した。

平井副社長は発言の中で、大学への産業界の積極的な受け入れ、地域社会との連携、アジアの研究、産学活動へのコミットメントなどを提言した。

インテック

新ビル「ポートラムスクエア」完成
ソフト開発の拠点として

インテックが富山市で建設を進めていた新ビルが完成し、7月末までに入居が完了し営業を開始した。富山市内に分散していたソフトウェア開発部門を集約し、生産効率の一層の向上を図る。正式名称は「インテック本社前ビル」。愛称は、ビルの前を走る「富山ライトレール」の愛称「ポートラム」にちなみ、「ポートラムスクエア」とした。

鉄骨6階建てで、延べ床面積は約1万平方メートル。周囲の景観との調和を重視して、外観は透明度の高いガラス張りとし、広々としたエントランスを設けた。エントランス中央には、彫刻家大成浩氏の作品「風の標識」が設置されている。また、CO₂の排出を抑えた省エネルギー型ビルとして、屋上を緑化するなど環境にも配慮している。

ソフトウェア開発、研究開発の拠点として、入退館管理や指紋認証システムをはじめとした徹底したセキュリティ対策をとっているほか、IPv6など最先端のインターネット技術を装備している。

なお、ポートラムスクエアの隣には事業所内託児施設「インテック・キッズホーム」を建設中であり、今春オープンする予定。



W & G

デジタルコンテンツの知的財産権を守る特許を取得

インテック・ウェブ・アンド・ゲノム・インフォマティクス(W & G)は9月、暗号化デジタル情報復号方法およびデジタル情報閲覧方法に関する特許(特許第3850942号)を取得した。

この特許はダウンロードされた音楽や絵画、映像、コンピュータソフトなどのデジタルコンテンツが不正に複製されることを防止するもの。暗号化したデジタルコンテンツを復号プログラムと併せてダウンロードしてもらい、そのプログラムによってデジタルコンテンツを復号して利用者に閲覧してもらう。また、閲覧時にサーバへの問い合わせを義務づけることで、閲覧を完全に把握・管理すると同時に、閲覧端末、閲覧時期を限定して不正防止を可能にした。

この特許により、デジタルコンテンツの知的財産権を守り、著作権者らに情報提供者の権利や利益を保護することへの応用が期待される。

北国インテックサービス

センサーと無線で、生体情報モニターシステム
睡眠時無呼吸症候群の診断にも

北国インテックサービスは石川県工業試験場などと共同で、金沢大学大学院が実施している、患者に負担なく無意識に生体情報を計測する「生体情報モニターシステム」の研究開発に参画している。これは、石川県産業創出支援機構が進める「石川ハイク・センシング・クラスター構想」に採択された事業である。同社は、近年注目されている睡眠時無呼吸症候群(SAS)に着目して医療や健康分野におけるニーズ発掘や市場調査をするとともに、一般家庭や病院・介護施設など幅広い分野での適用に向けた機能強化を図る予備実験を担当している。

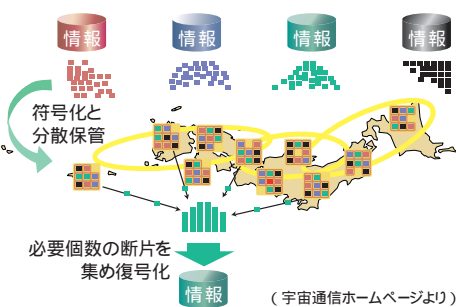
SASの診断では、多種のセンサーを装着し呼吸や心拍などの情報を調べることが多いが、手間がかかる上、患者がセンサーを意識してしまうことがあった。金沢大学大学院の山越憲一教授のグループは、独自開発した高感度で薄型のセンサーを枕やベッド敷布団の下に敷き、睡眠中の呼吸や心拍などの生体情報を取得するモニターシステムの研究を進めている。取得した情報をパソコンに送信し解析する機能を付加するにあたり、インテックグループの通信・ソフトウェア技術を用いる。石川県工業試験場は通信システムの評価分析を行う。

場所を選ばず、センサーを意識しないで生体情報を計測することが可能となり、様々な疾病患者の状況把握や一般人の健康管理への応用が考えられる。これらの予備実験と市場調査を元に実用化の検討を進めていく。



W & G

宇宙通信の実証試験に参加
次世代分散ストレージシステム



W & Gは11月より始まった宇宙通信の次世代分散ストレージシステムの広域実証試験に参加した。次世代分散ストレージシステムとは、通信衛星で用いられる消失訂正技術を応用して、全国に設置したストレージ(記憶装置)にデータを分散配置し、あたかも巨大な一つのストレージにデータが存在するかのように動作させるシステムである。企業情報や個人情報などの重要データを、意味のない断片にして分散して保管するため、セキュリティ面でも安全である。また、ある拠点が災害等でアクセス不能になった場合でも、他の複数の拠点で管理されているデータを用いて復元することで、中断無くアクセスし続けることができる。

試験では、富山を担当するW & Gをはじめ、北海道から沖縄までの計6カ所の通信会社、データセンターをインターネットで接続し、広域網でも速度や帯域利用率などの性能に劣化がないことを確認する。宇宙通信では来年度の実用化を目指している。

インテック

米・マイクロソフトのパートナー・オブ・ザ・イヤーを受賞
「SQL Server 2005」の日本初の導入事例が評価され

インテックは米・マイクロソフト「Microsoft Partner Program Award」のCustomer Experience Awardを受賞した。世界中のマイクロソフト認定パートナーを対象に、マイクロソフト製品を基盤とした優れたソリューションやサービスを提供したパートナーを表彰するもので、世界から2300件以上の応募があり、日本からはインテックを含め4社が各部門の最優秀賞に相当するWinnerを受賞した。

Customer Experience Award部門は、お客さまのニーズを深く理解して提供した、卓越したお客さまサービスに与えられる賞で、世界で10社が同部門のWinnerに選ばれた。インテックは、統合データマネジメント・分析プラットフォーム「SQL Server 2005」を用いた日本初の導入事例が評価され、日本からは同部門でインテック一社のみを受賞となった。

表彰は7月にポストンで開かれた「Microsoft Worldwide Partner Conference 2006」で行われ、11月には日本でも表彰式が行われた。



インテックの盛田副社長(右) 左はダレン・ヒューストン・マイクロソフト社長

インテック

金融機関の内部統制と収益拡大を支援
NETの採用で、F³(エフキューブ)のBI機能を高度化

インテックは金融機関向けCRMパッケージ「F³(エフキューブ)営業支援システム.NET版」を1月より販売し、金融機関の内部統制と収益拡大をIT面から支援する。

インテックは営業支援分野で20年以上の実績があり、これまで50を超える地方銀行・信用金庫にCRM/SFAシステムを導入してきた。今回、マイクロソフトの.NET FrameworkとSQL Server 2005を採用し、機能の大幅な高度化を図った。

具体的には、営業チャネルからの膨大なデータを分析して経営管理に役立つ情報へと変換するビジネス・インテリジェンス(BI)機能を追加、預かり資産を中心にベストポートフォリオの提案を支援する機能や、経営状況をひと目で把握できる「経営ダッシュボード」機能などを搭載した。さらに、顧客情報へのきめ細かなアクセス制御を実現するなどセキュリティも強化した。また、プログラムの汎用性と拡張性を高めたことで、短期間で提供できるようになった。

なお、マイクロソフトと共同で、全国6カ所で、金融機関向けITソリューションセミナーを1月より順次開催する。

1/24(水)大阪 1/25(木)名古屋 1/30(火)札幌 2/1(木)東京 2/2(金)福岡 2/7(水)仙台
お問い合わせ先:インテック ソリューション事業推進部 TEL:(03)6665-5135

ヒューマ

在宅でのプログラム開発を開始
事業所と同様のセキュリティで

インテックグループの人材派遣会社ヒューマはインテック北陸地区本部金融システム部と連携し、技術力も働く意欲もありながら、育児や介護、遠隔地等の理由で自宅を離れることのできない登録スタッフ向けに、派遣による在宅のプログラム開発業務を昨年11月より開始した。

事業所と同じセキュリティレベルを自宅に確保することで実現する、新しい派遣の形である。自宅のシンクライアントとインテックのサーバをブロードバンド環境を活用して、IPsecVPNで結び、RSA社のSecurIDを使って安全にプログラム開発を進める。

仕事の進捗やスタッフの健康状態の確認には随時、ウェブカメラを利用して映像通話している。ヒューマはインテックと連携して、今後もこうしたセキュアな環境での在宅のプログラム開発業務を積極的に拡大していく。



ウェブカメラでの打ち合わせの様子

シンクライアント
表示や入力など最低限の機能のみを持ったクライアント用コンピュータ。ハードディスクを持たず、アプリケーションやデータはサーバで一元管理する。

IPsecVPN
インターネットで暗号通信を行うための規格。専用線と同様の安全な通信環境を実現する。

RSA SecurID
RSAセキュリティが提供する本人認証システム。60秒に1回ランダムに変化する6桁の数字と個人の暗証番号の2要素で認証を行う。